

環境とサステナビリティ
(Environmental Science for Sustainable Society)

| | 1年次 | 前期 | 2単位 |
|----------|--|----|-----|
| 担 当 者 | 大塚 耕司, 牧岡 省吾, 斎藤 憲, 森岡 正博 | | |
| 授 業 目 標 | 現代社会におけるサステナビリティの重要性について理解させるとともに、持続的に自然と人・人と人が共に生きるための基礎となる環境システムについて、自然科学的、社会科学的、人間科学的側面から理解させる。また、科学技術など学問の発展が環境や社会へ与える影響について考え、専門家としての責任を自覚できる能力を身につけさせることを目標とする。 | | |
| 授 業 概 要 | <p>現代社会におけるサステナビリティの重要性に関する授業の後、環境システムに関して自然科学、科学技術の役割を含む社会科学、人間科学の各側面から講義する。</p> <p>第1～5回 人間環境科学の視点（担当者：牧岡省吾） ヒトが進化してきた背景を基にしてヒトの特異性や認知バイアスなどについて解説し、持続可能な社会の実現のために必要な、生物種としての人間に関する理解を深める。</p> <p>第6～10回 環境共生科学の視点（担当者：大塚耕司） 科学技術の発展に伴う資源開発と環境破壊、人口爆発に伴う気候変動や水・食糧・エネルギー枯渇など、人間活動が自然環境に及ぼす影響について知るとともに、持続可能性の概念について考え、廃棄物有効利用事例など学ぶことにより、人と自然との共生の重要性について理解する。</p> <p>第11～15回 社会共生科学の視点（担当者：細見和之） 20世紀に生じた決定的な出来事であるホロコーストを軸にしなが、ヨーロッパからアメリカ合衆国へ渡ったハンナ・アーレント（1906-1975）、亡命地からドイツへ帰国したテオドーア・アドルノ（1903-1969）らの思想を確認しつつ、さまざまな文化を背景とする人々が共生しうる、21世紀の平和学（Peace Studies）を構想する。なお、ホロコーストの証言を集めた長篇ドキュメンタリー映画『シヨア』を、毎回20分程度鑑賞する時間を組み込んで、具体的な証言を参照しながら考えることとする。</p> | | |
| 授業時間外の学習 | 授業中に適宜指示する。 | | |
| 教 科 書 | プリント配付 | | |
| 参 考 書 | 「成長の限界 人類の選択」ドネラ・メドウズ他、枝廣淳子訳、ダイヤモンド社、2005、「エコロジカル・フットプリントの活用」ニッキー・チェンバース他、五頭美知訳、合同出版、2005 | | |
| 関 連 科 目 | | | |
| 成 績 評 価 | 小テストの成績を総合して評価する。小テストの日程については授業の中で知らせる。 | | |
| 備 考 | | | |